

YODOGAWA STEEL WORKS

# 株主の皆様へ

第112期

平成22年4月 1日～  
平成23年3月31日



(重要文化財 ヨドコウ迎賓館)

Steel sheet

Building material

Exterior

Roll

Grating

株式会社 淀川製鋼所

証券コード5451

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、このたびの東日本大震災に被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

当社の第112期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の事業の内容につきましてご報告申し上げます。

平成23年6月

代表取締役社長 國保善次



当連結会計年度におけるわが国経済は、期初においては新興国経済の活況を背景に輸出の牽引による緩やかな景気の回復過程のなかで比較的順調なスタートを切りました。しかしながら、その後は円高の進展やアジア圏での鉄鋼市況の低迷、また国内におきましてはエコカー減税や補助金制度、エコポイント制度の終了や縮小等により景気回復のペースは減速もしくは停滞ともいふべき不安定な状況で推移しました。さらに平成23年3月11日に発生した東日本大震災による甚大な被害は、経済活動の面においても広くかつ深刻な影響を与えており、企業を取り巻く環境は不透明

感が増大しております。

国内鉄鋼業界におきましては、第3四半期連結会計期間以降につきましては、景気停滞下での原料価格の高止まりと円高の進展により、極めて厳しい環境下にありました。

当社グループの事業につきましては、鋼板関連事業の主原材料であります熱延鋼板の価格高騰を受け、顧客のご理解を得ながら販売価格の改定を進めてまいりました。しかしながら、世界的な鉄鋼市況が弱含んだこと、ならびに国内建築分野におきましては極端な不振が続いていることから、特に第3四半期連結会計期間以降、販売価格に

対する押下げ圧力が強く働き、価格競争も激化しました。

このような経済環境下において、当社グループは安全・安心・環境・景観をキーワードに質の高い商品・サービスの提供に努め、顧客のニーズに応えるとともに省エネ、省資材をはじめコスト削減に注力し積極的な販売活動を展開してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は1,447億73百万円となり、前期と比べ123億54百万円の増収となり、営業利益は42億23百万円(対前期22億22百万円増)、経常利益は47億49百万円(同19億3百万円増)、当期純利益につきましては17億27百万円(同50億23百万円増)となりました。

なお、東日本大震災により当社市川工場および京葉鉄鋼埠頭株式会社(共に千葉県市川市)において建物、機械設備の一部に損傷が発生し一時操業を停止いたしました。その後点検・整備を進めました結果、概ね3月末までに操業可能となりました。交換用部品手配のため復旧が遅れていました連続式めっき設備1基につきましても4月10日には、操業を再開し、全設備が稼働しています。

また、当事業年度の期末配当は、1株当たり5円とし6月29日よりお支払いすることといたします。これにより1株当たりの年間配当金は、中間配当5円とあわせて10円となります。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

連結業績の推移

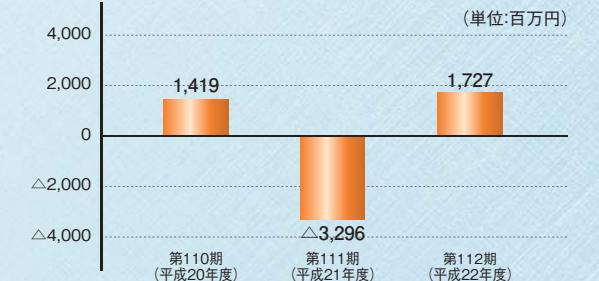
売上高



経常利益



当期純利益





## 「新しい個性を持った 価値の創造」実現へ 国内、そして グローバル市場へ

代表取締役社長 國保 善次

### 「安全・安心・環境・景観」を 事業キーワードに企業理念を具現化

まずは、この度の東日本大震災により被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、当年度における国内鉄鋼市場を概観しますと、国内経済はリーマンショック以降のデフレから依然脱却出来ず、人口減少という構造要因も重なり、建築需要を中心に国内需要は低迷が続きました。加えて、3月11日の東日本大震災は製造業を中心に需要産業にも甚大な被害をもたらしました。更に、高炉の原料調達先が寡占化したうえ、契約も短期化したことにより原料価格は高騰・不安定化し、需要低迷と原料高騰というダブル構造不況に陥った年と言えます。一方で海外市場に目を向ければ、新興国の鉄鋼需要が堅調に伸長し、インドを含めた巨大な

アジアマーケットが、国内市場の低迷をカバーするかたちで下支えました。こうした市場環境は、今後も継続すると見えています。

このような環境下において、当社グループの企業理念である「新しい個性を持った価値の創造」を今後いかに具現化していくかが大きな課題と考えています。そのための方針として当社グループは、「安全・安心・環境・景観」という4つのキーワードを事業キーワードに掲げています。販売戦略、商品開発、製造プロセスなど、あらゆる事業活動において、これら4つのキーワードに「個性ある価値」を求めることにより、当社グループ全体の企業価値向上を図る考えです。

### 省エネ・防災・耐震に対する需要の高まりに 積極的に応えていく使命

その足がかりとなった当年度においても、これらに向け

て注目すべき取り組みがありました。

たとえばロール業務では、製紙の上流プロセスに用いる「シュープレス」分野において高い技術を持つドイツのアンドリッツ・キュスターズ社と技術契約を結び、生産効率向上に寄与する抄紙設備の製造に着手します。

建材業務では、高い施工技術や現場管理能力を必要とする「JR大阪駅大屋根工事」や「さいたまスーパーアリーナ」に太陽光発電システム「ファインソーラー」を完工しました。また、屋根材の防耐火試験用水平炉を建材性能試験場に導入したことにより、既設の壁用垂直炉と動風圧試験機と併せ国内トップクラスの試験設備が完成し、より安全・安心な商品を提供する環境が整いました。



屋根用耐火試験装置

また、エクステリア商品では、ゴミ収集庫「ダストピット」がデザインのみならず機能性も評価され「2010年度グッドデザイン賞」を受賞しました。2010年7月に発売しましたガレージにオープンスペースを併設した新商品(ヨドガレージラヴィージュ)は、従来の車庫だけにとどまらない様々な用途展開が可能で他社にない特長により新たな需要を掘り起こしています。

そのほか、この度の震災によって防災・耐震に対する人々の関心が高まる中、当社のコア商品である表面処理鋼板(ファインスチール)は、他の屋根素材に比べ耐震性で高い優位性を持っています。また2010年に発足したマーケ

ティンググループが用途提案まで含めて販売促進活動を展開している「防災倉庫」など、これから需要の伸びが期待される商材もあります。これら防災・耐震に貢献する商品については、一層伸ばしていく責任もあると自負して取り組んでいます。



防災倉庫 ヨド蔵MD

### 中国・ASEANに加え、 次代のアフリカ市場も視野に

海外事業については、これまで国内市場で培ってきた技術を海外でも活かすべく、グローバル化をさらに積極的に推進する考えです。

2011年3月に中国の合肥で新たに子会社を設立することを決定したほか、タイの子会社PPT社では2013年に稼働開始予定で塗装設備を設置することと



RRM社 Chairman/Managing Director Sikander Lalani氏(左)と  
当社代表取締役社長 國保善次(右)

しました。また、経済情勢が大きく変わり始めているアフリカにおいては、かねてより友好関係にあったウガンダの現地鋼板メーカー(RRM社)に対し、資本、設備、技術支援の面で関わっていくことを決め、次代のアフリカ市場も視野に入れていきます。

\*PPT社…PCM PROCESSING(THAILAND)LTD.  
\*RRM社…ROOFINGS ROLLING MILLS LTD

### グローバル市場で目指す 「新しい個性を持った価値の創造」

国内・海外両市場で当社グループがさらに飛躍するためには、巨艦ではなく、高機能の駆逐艦であるべきだと考えています。「安全・安心・環境・景観」という4つのキーワードを軸に、ヨドコウならではの高性能商品を生み出すことによって、国内需要をいかに掘り起こす。また同時に、国内で得たあらゆるノウハウを武器に、海外で求められるものをその需要地で製造することで応えていく。ヨドコウの掲げる「新しい個性を持った価値の創造」の実現は、その先にあると確信しています。

# JR大阪駅の 感動空間を包む ヨドルーフ200



営業本部 営業二部 工事グループ 本社チーム  
主任 武岡 弘勝 / 清水 雅廣

「都心に残された最後の一等地」と言われ、注目されたJR大阪駅北エリア。その開発に伴うJR大阪駅の大規模改修工事において、南北をつなぐ巨大ドームの大屋根部分を、ヨドコウが受注、施工しました。このプロジェクトは、大阪の“まち”の可能性とともに、ヨドルーフの可能性も大きく広げるものとなりました。

## 高性能でデザイン性に優れた 屋根を折板によって実現。

2011年5月4日、「大阪ステーションシティ」がオープンしました。西日本最大のターミナル・JR大阪駅と、南北の2つのビル、そしてそれらをつなぐ大規模ドーム。中でもホーム上を覆うドームは、東西約180m、南北約100mに至り、従来の鉄道駅舎の概念を超える巨大な建造物として、日本初のダイナミックな空間を作り上げています。このドームの大屋根部分の施工を担当したのが、ヨドコウです。

「改修工事全体を請け負っている大林組様とヨドコウは、過去何十年にわたってさまざまな物件を協力して施工してきた実績があります。今回のJR大阪駅の改修工事についても、真っ先に相談をいただきました。」(武岡)

ただし、与えられた課題は極めてハードルの高いものでした。強度、水密、耐久性等、全ての性能において非常に厳しい条件をヨドコウの折板に求められたのです。

「折板で要求された性能を満たす事ができるのか。まさに不可能を可能にするようなチャレンジと思えました」(武岡)



株式会社大林組  
大阪駅統括工事事務所  
駅改良工事担当所長  
竹中 秀文様

## 難易度の高い工法を 実現できたヨドルーフ 大屋根工事の究極の工法

大屋根工事はホーム上の限られた空間で、昼夜を通して工事を行うという過酷な条件の工事でした。ホーム頭上にある橋上駅部分で屋根材を成型しクレーンで持ち上げ上空で組み、完成した屋根を上げていくという非常に難易度の高い工事でした。ヨドルーフはこの難易度の高い工法を可能にした非常に施工性の良い商品でした。

実施し、止水性、強度ともに承認をいただくことができました。

## 施工現場の下を列車が走り、 乗客が歩くという条件での作業

設計の次の施工段階でも、高いハードルが待ちました。作業員だけが出入りする通常の施工現場とは異なり、このプロジェクトでは納期の関係で昼夜を通して工事を実施するため、施工現場の下には列車が走り、ホームを乗客が歩いているという条件での作業となったのです。

「非常に特異なケースでした。作業員は

ができれば、どんな現場でも通用する。それくらい難度の高い施工物件だったと言えます。だからこそ、無事故で工事をやりとげた時はかつてない達成感を得ることができました」(清水)

## ヨドルーフのポテンシャルの 高さを証明したプロジェクト

大阪の玄関口にふさわしい感動空間。その最上部をヨドコウのヨドルーフ200が、美しいアーチを描いて包んでいます。従来、工場や物流倉庫などに用いられる屋根材として認識されていた折板屋根ですが、

先の阪神甲子園球場の銀傘屋根に続き、このJR大阪駅のドーム屋根に採用されたことにより、適応性に優れた屋根材であることを実証しました。

またその意匠性についても、今回、折板屋根を山なりの曲線を描く「正曲げ」と弓なりの曲線を描く「逆曲げ」をかたちにしたことから、さまざまな意匠を実現するヨドルーフ200のポテンシャルの高さを示しました。すでに各方面から問い合わせをいただいています。

店舗・倉庫向け用途から意匠性の高い一般建築物用途へ。ヨドルーフはさらにその可能性の翼を広げました。



特に求められたのは、止水性と強度です。南北100mに及ぶ屋根は、曲線が複合的に組み合わせられたデザインのため、屋根全長を4分割し、3カ所のジョイントでつなぐ設計。そこで止水性については、強風でたとえ横から雨が勢いよく降りつけても雨水が漏れないよう、ジョイント部の部材や構造を検討し、試作と試験を繰り返しました。また強度については、強いビル風が吹く環境にさらされても、求められる強度が確保できる屋根材として、ヨドルーフ200を採用することによってクリア。度重なる試作の末、最終的にはJR西日本様と大林組様の立ち会いのもとで本試験を

レーザーで区切られたスペースから1mmでも外へ出てはならないなど、極めて細かいルールが定められ、ビス一つ落としても事故になるという、極めて厳しい管理を求められた中での工事でした」(清水)

厳しい制約に縛られる中で、試験をパスした設計通りの施工を、全員が同じレベルの高精度で実施していくことが求められました。安全・工程・品質。どれか一つが欠けても許されません。現場でのルールや作業内容の周知徹底はもちろん、設計部門と施工部門とのコミュニケーションも密にとりながら工事を進めていきました。

「この現場を無事故でやり遂げること



西日本旅客鉄道株式会社  
大阪駅事務所  
大阪駅改良工事所 助役  
端山 賢一様

## 技術提案・施工管理における品質の 高さを実感したプロジェクトです

「街」をコンセプトにした新しいJR大阪駅の中でも、開放的で明るい日差しが降りそそぐトップライトのある大屋根は重要な役割を果たしています。ヨドコウさんは毎日1,500本以上の列車が行き交うホーム頭上での難工事を克服し、こちらが求める以上の高い品質を提供してくれました。何より無事故でこの巨大プロジェクトを成功へと導いてくれたことに感謝しています。

鋼板業務

国内販売力強化と  
海外展開による事業拡大へ

国内建築用途の需要の低迷のなか、販売量は微増。主原材料である熱延鋼板の価格高騰に伴う販売価格の改定が寄与し、増収。

しかしながら、上期終盤より国内外ともに鉄鋼市況が低迷、熱延鋼板価格が高止まりのなか、販売価格は下落しました。特に、海外向けは円高や海外鋼材市況の悪化により厳しい環境でありました。台湾の子会社センユースチール社では、輸出量の増加と販売価格の上昇により売上高は大きく増加しました。

今後、中国を含むアジア地区での家電向けPCMの需要を捕捉すべく中国にてセンユースチール社との共同出資による子会社設立、海外子会社であるタイのPPT社への設備投資を決定しました。

また、需要低迷下での原料高という厳しい状況が続くことが予想されるなか、環境対応商品を中心とした質の高い商品とサービスの提供に努め、お客様のニーズに応えてまいります。

建材業務

建築需要低迷のなか、増収  
高機能商品の提案・開発・拡販

建築関連需要の低迷のなか、売上高は堅調に推移。

店売鋼板商品は、住宅エコポイント政策効果で住宅関連の薄板カラー鋼板が好調に推移。

建材商品では、壁材の断熱パネル「ファインパネル」が、省エネ志向から店舗などを中心に採用が増加。工事グループでは、「JR大阪駅大屋根工事」を完工。また太陽光発電システム「ファインソーラー」を「さいたまスーパーアリーナ」に設置。

エクステリア商品は、様々な用途展開が可能なオープンスペースを併設したガレージ「ヨドガレージ ラヴィージュ」を発売。

ゴミ収集庫「ダストピットDPRA」は、ごみの投入・回収に配慮した構造等が評価され『2010年グッドデザイン賞』を受賞。また、新たな需要開拓のためにマーケティンググループを新設し従来の商品の販売だけではなく提案型営業を展開しています。

鋼板関連事業

主な製品

冷延鋼板、磨帯鋼、カラー鋼板、ガルバリウム鋼板ほかの表面処理鋼板、建築材料（屋根材、壁材など）、建設工事の設計および施工、エクステリア商品（物置、ガレージ、自転車置場、ダストピットなど）

売上高推移（百万円）



ファインソーラー



ヨドガレージ ラヴィージュ

ゴミ収集庫  
ダストピット

2010年度  
グッドデザイン賞  
受賞



GOOD DESIGN



ダストピット Rタイプ DPRA-1807

熾烈な価格競争のなか  
提案型営業・技術サービスを展開

原材料価格の高騰や国内外ともに厳しい価格競争のなか、販売量・売上高とも減少。

鉄鋼業向けロールでは、海外向けの厚板用大型ロールは好調に推移。国内鉄鋼業向け熱延用ロールは厳しい価格競争にさらされており、非鉄向けは、製紙業向けが不振となりました。

今後も引き続きコストダウンと積極的な提案型営業活動と技術サービスを展開することにより収益の確保に努めます。

公共事業削減の厳しい環境のなか  
高機能商品の拡販に注力

長引く公共事業投資の削減による市場規模縮小と販売競争の激化により販売量・売上高とも減少。

ゲリラ豪雨対策に高い評価を得ている「ヨドウォーターフォールズ」や海岸地区等に求められる高い耐食性を持つ「ヨドガルファングレーチング」等の高機能商品の販売に注力します。

不動産事業につきましては、引き続き底堅く推移。その他事業のエンジニアリング事業につきましては、アフリカのガーナ及びギニア向けに横型波付機を納入。またウガンダのRRM社との間で連続式溶融亜鉛めっきライン(CGL)および連続式カラーライン(CCL)プラント受注ならびに技術支援に合意しました。

ロール事業・グレーチング事業

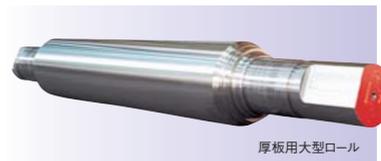
主な製品

ロール事業 鉄鋼用ロール、非鉄用ロール  
グレーチング事業 グレーチング

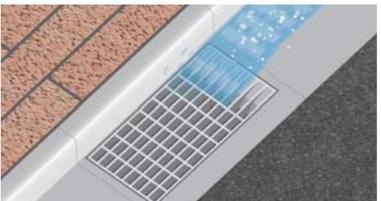
売上高推移（百万円）



(注) 当期【第112期】より電炉関連事業をロール事業、グレーチング事業の2つのセグメントに分割しました。



厚板用大型ロール



越流抑制商品「ヨドウォーターフォールズ」

不動産事業・その他事業

不動産事業 ビル賃貸、駐車場経営  
その他事業 機械プラント、ゴルフ場経営、倉庫業、運送業

売上高推移（百万円）



東日本大震災の  
支援活動について

◇義援金

当社ならびに当社グループ7社[(株)佐渡島・白洋産業(株)・京葉鐵鋼埠頭(株)・高田鋼材工業(株)・ヨドコウ興発(株)・ヨドコウ興産(株)・(株)淀川芙蓉]は、被災に遭われた皆様と被災地の復興に役立てていただくため、義援金として2,000万円を社会福祉法人中央共同募金会を通じて贈りました。

またセンユースチール社も義援金200万台湾ドル(約550万円)を台湾政府外交部を通じて贈りました。

◇支援物資

経団連を介し、災害支援センターとして当社ヨドハウス(Fタイプ/30畳)4棟(約1,400万円)を設置工事も含め寄贈いたしました。

ヨドハウスは、釜石市・陸前高田市・大槌町(2棟)で災害支援ボランティアセンター等として使用され、被災地で役立てていただいております。



## 連結決算の概要

### 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当 期 平成23年3月31日	科目	当 期 平成23年3月31日
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
流動資産	93,599	流動負債	22,679
現金及び預金	14,866	支払手形及び買掛金	15,925
受取手形及び売掛金	32,064	そ の 他	6,753
有 価 証 券	15,272		
棚 卸 資 産	27,783	固定負債	13,532
そ の 他	3,847	退職給付引当金	7,418
貸倒引当金	△ 234	長期預り保証金	3,450
固定資産	81,569	そ の 他	2,664
有形固定資産	47,567	負 債 合 計	36,211
建物及び構築物	14,628		
機械装置及び運搬具	13,120	<b>【純資産の部】</b>	
土 地	18,816	株主資本	125,973
そ の 他	1,001	資 本 金	23,220
無形固定資産	404	資 本 剰 余 金	23,738
投資その他の資産	33,597	利 益 剰 余 金	88,288
投資有価証券	30,033	自 己 株 式	△ 9,274
そ の 他	3,614	その他の包括利益累計額	906
貸倒引当金	△ 51	その他有価証券評価差額金	3,995
		土地再評価差額金	1,386
		為替換算調整勘定	△ 4,474
		新株予約権	109
		少数株主持分	11,966
		純 資 産 合 計	138,956
資 産 合 計	175,168	負債及び純資産合計	175,168

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 損益計算書

(単位:百万円)

科目	当 期 平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで
売 上 高	144,773
売 上 原 価	126,975
売 上 総 利 益	17,797
販売費及び一般管理費	13,573
営 業 利 益	4,223
営 業 外 収 益	1,065
営 業 外 費 用	539
経 常 利 益	4,749
特 別 利 益	107
特 別 損 失	1,861
税金等調整前当期純利益	2,995
法人税、住民税及び事業税	678
法 人 税 等 調 整 額	467
少数株主損益調整前当期純利益	1,849
少 数 株 主 利 益	121
当 期 純 利 益	1,727

### キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当 期 平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,905
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,148
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,643
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 54
現金及び現金同等物の増加額	3,059
現金及び現金同等物の期首残高	26,690
現金及び現金同等物の期末残高	29,750

## 株式の概要 [平成23年3月31日現在]

### 株式の状況

発行可能株式総数	753,814,067株
発行済株式の総数	184,186,153株
株 主 数	9,045名

### 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,245	5.72
みずほ信託銀行株式会社	5,470	3.38
株式会社りそな銀行	5,342	3.30
株式会社みずほコーポレート銀行	5,310	3.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,590	2.84
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,904	2.41
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	3,886	2.40
日本生命保険相互会社	3,866	2.39
ヨドコウ取引先持株会	3,437	2.12

(注)当社は、自己株式22,761千株を保有しておりますが、上記株主には含めておりません。  
また、持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

### 1株当たり配当金推移



## 会社の概要

### 当社の概要

社 名	株式会社淀川製鋼所
設 立	昭和10年1月30日
資 本 金	23,220,815,228円
従業員数	1,294名

### 当社の主な事業所

本 社	〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号
支 社	〒104-0041 東京都中央区新富一丁目3番7号
営 業 所	札幌、盛岡、仙台統括、新潟、長野、高崎、東京統括、横浜、静岡、北陸、名古屋統括、大阪統括、神戸、岡山、福山、広島、高松統括、高知、八幡、福岡統括、鹿児島、沖縄
工 場	大阪(大阪府)、呉(広島県)、市川(千葉県)、福井(福井県)、泉大津(大阪府)

### 当社の役員

取締役	執行役員
代表取締役社長	國保 善次
代表取締役	専務執行役員 寺田 剛尚
取締役	常務執行役員 遠山 巽
取締役	常務執行役員 西村 修
取締役	常務執行役員 河本 隆明
取締役	石田 榮次
	常務執行役員 大森 豊実
	上席執行役員 大森 眞
	上席執行役員 澤田 滋
	上席執行役員 林 真生
	執行役員 海老原 洋一
	執行役員 鉄橋 彰

※石田榮次氏は会社法に定める社外取締役です。

監査役	
監査役(常勤)	境口 勝己
監査役(常勤)	向井 信正
監査役	今西 康訓
監査役	湯浅 光章

※今西康訓および湯浅光章の両氏は会社法に定める社外監査役です。

## 株主メモ

決算日	3月31日
定時株主総会	6月開催
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要あるときは、予め公告して定めます。
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告 ※当社ホームページをご覧ください。 <a href="http://www.yodoko.co.jp/">http://www.yodoko.co.jp/</a>

### 株式に関するお手続きについて

株式に関するお手続きは、証券会社の口座に記録されている場合と、特別口座に記録されている場合で異なりますので、下記の該当窓口までお問合わせください。

証券会社の口座に記録されている株式		特別口座に記録されている株式	
お手続き・ご照会の内容	お問合せ先	お手続き・ご照会の内容	お問合せ先
<ul style="list-style-type: none"> <li>●単元未満株式の買取・買増請求</li> <li>●届出住所・氏名などの変更</li> <li>●配当金の受領方法・振込先の変更</li> </ul>	口座を開設されている証券会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>●単元未満株式の買取・買増請求</li> <li>●届出住所・氏名などの変更</li> <li>●配当金の受領方法・振込先の変更</li> </ul>	特別口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
<ul style="list-style-type: none"> <li>●郵送物の発送・返戻に関するご照会</li> <li>●未払い配当金に関するご照会(※)</li> <li>●その他の株式事務手続きに関するご照会</li> </ul>	株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部	<ul style="list-style-type: none"> <li>●郵送物の発送・返戻に関するご照会</li> <li>●未払い配当金に関するご照会(※)</li> <li>●その他の株式事務手続きに関するご照会</li> </ul>	株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

(※)未払い配当金のお支払いについては、株式会社みずほ銀行本店及び各支店でもお取り扱いいたします。

みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 ご連絡先

電話…………… 0120-288-324 (フリーダイヤル)  
インターネット…………… <http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>  
郵送物送付先…………… 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

## スチール! & アイデア! ヨドコウ

〒541-0054

大阪市中央区南本町四丁目1番1号

TEL. (06) 6245-1111 (大代表)

<http://www.yodoko.co.jp/>

重要文化財

## ヨドコウ迎賓館のご案内

旧山邑家住宅

### 開館ご案内

開館日 / 毎 土 日・水曜日と祝日

開館時間 / 10時～16時 (入館は15時30分まで)

入館料 / 大人・大学生 / 500円 団体 / 400円 (30名以上)

小・中・高校生 / 200円 団体 / 100円 (30名以上)

### 問い合わせ

淀川製鋼所 広報課 06-6245-9103

ヨドコウ迎賓館 0797-38-1720

<http://www.yodoko.co.jp/geihinkan/>



フランク・ロイド・ライト 設計

